

令和5年度 新富町立富田中学校 学校評価書

教育目標「豊かな心、すぐれた知性、たくましい体を備え、粘り強さと実践力のある生徒の育成」				4段階評価 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する						
評価項目	重点目標	方策・手立て	具体策・数値目標	アンケート			学校の自己評価		学校運営協議会	
				生徒	保護者	教師	成果(○)と課題(●)	評価	評価	所見
地域とつなげる学校	1 コミュニティ・スクールの推進	ア:地域みんなが顔見知り イ:子どもが育てば地域が育つ ウ:学校、いきいき 地域つなぐ	○コミュニティ・スクールの会議を年3回開くとともに学校行事への参観を積極的に行う。 ○コミュニティ・スクールの委員の意見を次年度教育課程へ反映させる。 ○職員との熟議を実施し、相互の意見交換や情報共有を図る。	79 %	79 %	75 %	○コミュニティ・スクールの委員が積極的に学校行事等に参加していただいた。 ●熟議を開くことができなかった。	3	3	○多くの学校行事に参加、見学することができた。 ○家庭で学校のことが話題になっていることは良かった。 ●生徒の意見を聞く場があるとよい。地域とのつながりをつくってほしい。(横のつながり) ●家庭格差がないことを願う。 ●運営委員として課題把握はできたが、取組まで至らなかった。
	2 地域資源(ひと・もの・こと)の把握及び積極的な活用	ア:地域資源の把握 イ:地域人材の活用	○学校行事や総合的な学習の時間ご地域の方々を講師として招く。				○地域の方々と講師を招いて実施できた。 ●次年度への引継ぎの在り方や人材バンクづくりをする必要である。			
	3 積極的な情報発信	ア:生徒の頑張りの様子を保護者へ地域に広める	○学級通信や学校通信「富田の風」、HPで情報を発信する。 ○学校通信は地域の回覧板や民生児童委員の集まりでも配付し発信する。				○様々な形で発信することができた。 ●民生児童委員への提供が不十分であった。			
	4 校区内小学校・特別支援学校との連携	ア:小中連携の授業研究会、授業参観 イ:学業指導の小中合同会議、交流事業	○小中合同研修会を11月に本校で行う。				○アンガーマネジメント研修を小中で行うことができた。 ●相互の授業参観や学業指導の協議ができなかった。			
豊かな心の育成	1 人権・同和教育の推進	ア:全教育活動を通しての、人権に対する認識の深化を図り、ノーマライゼーションの理念に基づき人権感覚を磨く	○全教育活動を通して、人権感覚を磨く指導を行う。 ○講師を招いての人権集会を行う。 ○人権に関する啓発資料の配付、掲示、放送を行う。	85 %	87 %	62 %	○4月にいじめについて考える人権学習を実施した。 ●相手の気持ちを考えた言動を取るよう指導していく必要がある。	3	3	○相談や悩みを聞いてくれる人がいることに安心した。 ○生徒が主体となった行事は素晴らしいと感じた。 ○道徳の発問も工夫されている。 ●はっきりしたいじめ・不登校の対処が難しい気がした。表面に現れていない問題もある。 ●生徒の気持ちにも配慮した行事運営もしてほしい。 ●メディアコントロールは、保護者も学ぶ機会が必要。
	2 生活三原則の指導の徹底	ア:「時を守り」「場を清め」「礼を正す」の指導の具現化	○委員会活動を充実させ、生徒の力による生活三原則の具現化を目指す。 ○望ましい集団生活の在り方を示す。				○工夫した委員会活動を行うことができた。 ●生活三原則の徹底には至らなかった。			
	3 是々非々の姿勢で判断できる集団づくり	ア:ルールの共有と人間関係の構築 イ:行事等を通した連帯感や達成感 ウ:教師自らが「夢と希望」を語る場づくり	○安心安全な学校生活を送るためにルールが必要であることを意識させる。 ○生徒が主体となった学校行事を運営し、連帯感や達成感を味わわせる。 ○朝の会や帰りの会、集会等において、教師が夢や希望を語る。				○生徒の力で、望ましい人間関係を築くようにしたい。 ○関係機関と連携し、対応することができた。			
	4 問題行動やいじめ、不登校への対応	ア:組織的な対応と関係機関との連携 イ:いじめ・不登校の未然防止と早期発見	○関係機関と連携し、不登校や支援が必要な家庭に対応していく。 ○月1回のいじめアンケートを実施し、いじめの未然防止に努める。				○不登校生徒に継続して対応していく必要がある。 ●資料や授業内容を職員で共有し、授業改善を図った。 ●道徳で考えた内容を普段の生活に繋げていきたい。			
	5 道徳教育の充実	ア:道徳の時間の指導の工夫	○資料や発問を工夫し、「考え、議論する道徳」の授業実践に努める。				○資料や授業内容を職員で共有し、授業改善を図った。 ●道徳で考えた内容を普段の生活に繋げていきたい。			
健やかな体の育成	1 命や健康を大切にする教育の推進	ア:防災教育の充実及び交通指導の徹底 イ:薬物乱用防止教室、性に関する教育の実施 ウ:給食指導の充実	○避難訓練を学期1回実施し、1学期ご交通指導を行う。 ○薬物乱用防止教室は、3年に1回実施する予定なので、R7に実施する。 ○性教育は外部講師を招いて各学年1時間実施する。 ○給食集会を行い、食事のマナーや、配膳、片付けの留意事項を周知させる。	80 %	74 %	58 %	○2年生は今年度から大学生と一緒にピアカウンセリング教育を実施できた。 ○ほとんどのクラスが時間内に片付けられている。 ●残菜が多い日がある。	4	3	●防災教育の充実を早急にお願したい。薬物乱用防止教室は犯罪が多いので、毎年してほしい。 ●食への関心を高める指導も家庭も含めて必要である。 ●部活動の外部指導者の導入を本格的に取り組み対策を考えたい。 ●大会で好成績を残していることを町内の方にも知ってもらいたい。
	2 体力向上をめざした保健体育授業の実施	ア:体力向上プランに基づいた保健体育授業の充実	○主運動の前に、総合的な体力を向上させる補助運動の実施。 ○体力テストの個人分析を行い、目標設定や自分に合った体力向上プランを立て実施する。				○生徒が体力向上について意識を高め、授業に取り組むことができた。 ●目標としていた数値に達しない種目があった。			
	3 心と体を鍛える部活動の推進	ア:責任感や連帯感を養う部活動指導の実施 イ:生徒一人一人に応じた支援を通した技術の向上	○選手推薦式の実施。 ○大会や練習試合等の積極的な参加				○選手推薦式を4回実施でき、良い成績を残すことができた。			
学びに向かう力の育成	1 キャリア教育の推進と進路指導の充実	ア:キャリア教育の視点を踏まえた教科指導の充実 イ:ふるさと学習を通した「夢や希望」の具現化	○総合的な学習の時間に各学年、外部講師を1回以上招く。	72 %	62 %	66 %	○各学年、講師等を招いて総合的な学習の時間で重点的に実施することができた。 ●講義形式の授業がまだ行われている。	4	3	○毎年、学習の工夫がされていて素晴らしい。 ●読書習慣が身に付いていないと認識しているのが残念であった。 ●先生方が授業に集中できるように支援員の増加や環境づくりを整える必要がある。
	2 授業の充実+ICTの積極的活用	ア:一生涯使える教育技術を磨く イ:「美しい字」「わかめやすしい発音・話術」 ウ:個に応じた指導、指導方法工夫改善の充実及び学校支援ボランティアとの連携 エ:問題にきづく力、問力を育てる	○ICT機器を効果的に活用する。				○パソコンやタブレットなどのICT機器をうまく活用しながら個に応じた学習指導の工夫を充実することができた。 ○授業に集中できない生徒のサポートで学校支援ボランティアの積極的な活用が実現することができた。 ●思考・判断・表現を育てる授業の内容を研修する必要があるが、基礎基本の定着が優先課題である。			
	3 特別支援教育の充実(合理的配慮)	ア:特別な支援を要する生徒への支援体制の整備 イ:保護者及び関係機関との連携	○情報共有、連携、協力、協力の徹底				○支援体制の連携、協力、対応はできている。 ●支援する人員が足りていない。			